

態度表明

令和 5 年度は、「新たなステージへ！」と題して、当初予算が編成され、主な新規事業・充実事業として、新規 28 事業、充実 21 事業、継続 43 事業の、計 92 事業にかかる予算が執行されました。

5月にコロナウイルス感染症が2類から5類に引き下げられ、経済活動が勢いを取り戻しはじめ、まちにはにぎわいが戻ってまいりました。

しかしながら、平時の生活を取り戻しつつある一方で、世界に目を向けると、ロシアのウクライナ侵攻が継続するなか、更にはパレスチナ・ガザ地区を巡る紛争が重なり、いずれも終息へと向かう気配のない、誠に憂える状況が現在も続いています。このような国際状況を背景として、区民生活には終わりの見えない物価高騰の影響が影を落としています。

こうした中、区は基本構想の「輝く未来へ橋を架ける」べく、基本計画の改定を行い、改定後の初年となる令和 5 年度予算のテーマを「新たなステージへ！」として、改めて新たな歩みを始めたものと捉えております。この着実な展開をはかるべく各種施策が実施されたことと評価しております。

令和 6 年度は晴海フラッグがまち開きとなりました。今後さらに人口増加が進み行政需要の増加も見込まれます。まちには子どもたちが多く見られ、大変喜ばしいことですが、本区の宝である子どもたちが健やかに育まれる子育て環境と教育環境の整備が引き続き求められます。

また、インバウンド需要が順調な伸びを見せる一方で、ごみ処理に関する事業者負担が増えていることや災害時の対応など、その対策は喫緊の課題となっております。能登半島地震の教訓を踏まえた区民への防災対策とあわせ、取り組みを進めるようお願いします。

更に近年、地球温暖化など気候変動が大きな問題となっています。檜原村や大熊町との連携事業を通じて、将来的な脱炭素社会の実現に向けて、本区の若い世代が環境問題を考える機会を充実させることも重要だと考えます。

本委員会において我が会派からは、コロナ後の各分野における取り組み状況についてさまざまな質疑・要望をいたしました。いずれも切実なる課題と捉え、先般提出した重点政策要望とともに、次年度予算編成に反映をし、引き続き 20 万都市に向け着実な歩みを進めて頂くようお願いします。

以上を申し上げて、本決算特別委員会に付託されました、令和 5 年度歳入歳出決算の認定に同意いたします。